

市民等との協働事業一覧
(平成30年度事業)

平成30年度市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
1	企画部	秘書広報課	交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	1	
2	市民安全部	市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	3	
3				不動産鑑定士による無料相談会	5	
4				不動産無料相談会	7	
5				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	9	
6				相続税等無料相談会	11	
7				青梅市市民のくらし展	13	
8				防災課	防災係	青梅市防災講演会
9	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	17		
10			お〜ちゃんフェスタ2018	19		
11			市民活動団体支援講座	21		
12			「おそきだより」の発行	23		
13			男女平等情報紙発行事業	25		
14			青梅市民センター	青梅市民センター運営協議会	27	
15		青梅市民センター文化祭		29		
16		サークル共催講座		31		
17		長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	33		
18			長淵地区文化祭	35		
19		大門市民センター	大門市民センター運営協議会	37		
20			文化展	39		
21			地域散歩	41		
22		梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	43		
23			梅郷市民センター文化祭	45		
24		沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	47		
25			三田地区総合文化祭	49		
26		小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	51		
27			小曾木地区文化祭	53		
28		成木市民センター	成木市民センター運営協議会	55		
29			成木地区文化祭	57		
30			東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	59		
31		東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	61		
32			東青梅市民センターコミュニティ文化祭	63		
33			第八支会ささえあいフェスティバル	65		
34			はじめてのUVケア教室	67	○	
35		新町市民センター	新町市民センター運営協議会	69		
36			新町末広地区市民文化祭	71		
37			おうめこどもエコクラブ共催事業	73		
38		河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	75		
39			河辺市民センター文化祭	77		
40		今井市民センター	今井市民センター運営協議会	79		
41			今井市民センター文化展	81		

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
42	市民安全部	市民活動推進課	今井市民センター	市民ウォーキング	83			
43	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2018	85			
44				おうめ環境ニュースの発行	87			
45				クールビズ運動	89			
46				みんなで打ち水！	91			
47				ウォームビズ運動	93			
48				エコドライブ運動	95			
49				みどりのカーテン事業	97			
50				ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	99			
51				多摩川まるごと遊び塾	101			
52				がんばれ！あゆっ子2018「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	103			
53				第10回炭焼き体験と水辺の交流会	105			
54				親子魚釣り教室2018(釣ったらどうする?)	107			
55				じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	109			
56				いかだであそぼう in 霞川 Part10	111			
57				お魚つりに挑戦しよう	113			
58				飼い主のいない猫のための「里親会」	115			
59				動物愛護週間イベントinおうめ	117			
60				さくらねこ無料不妊手術事業	119			
61				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	121	
62						「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	123	
63	公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	125				
64			緑地管理ボランティア	127				
65			青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)	129				
66	健康福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	131			
67			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	133			
68				認知症サポーター養成研修事業	135			
69				介護サービス相談員派遣事業	137			
70				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	139			
71			障がい者福祉課	認定サービス係	平成30年度 入門・初級手話講習会	141		
72	健康課	健康推進係	第49回おうめ健康まつり	143				
73	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	145			
74				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	147			
75				子育てネット事業	149			
76				子どもふれあいフェスタ2018	151			
77				青梅市民センター子育て支援事業	153			
78				あつまれ！0.1.2.3 ちびっこ☆ランド	155			
79			青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	157			
80	経済スポーツ部	商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	159			
81				梅の公園ガイドボランティア事業	161			
82		農林水産課	林務水産係	森林ボランティア育成講座	163			
83		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第53回青梅マラソン大会	165			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
84	都市整備部	都市計画課	開発指導係	青梅駅周辺景観まちづくり	167	
85		住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	169	
86				青梅市定例住宅相談会	171	
87	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	173	
88		社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2018～	175	
89				家庭教育講演会	177	
90			図書館担当	「この指とまれ！」朗読会	179	
91		中央図書館整架ボランティア		181		
92		おはなしボランティア		183		
93		文化課	郷土博物館管理係	鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし	185	
94	市民提案協働事業	子ども家庭支援課・公園緑地課		「青梅の森の赤ちゃんカフェ」事業	189	
95		社会教育課		うごいて つくって なりきって「体験ワンダーランドIN青梅」	193	
96		農林課		森林資源(山の恵み)を様々な利用して、青梅の森林・林業を元気に	199	
97		スポーツ推進課・社会教育課		オリンピック銀メダリスト・平野早矢香氏卓球講習会「東京2020大会に向けジュニア世代の意識向上を目指す」	207	
98		スポーツ推進課		日本サッカー協会コーチングスタッフによるトレーニング講習会～子どものやる気を「引き出すスポーツ指導術～	211	

協働事業評価シート

(93事業)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課 交流担当
------	----------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年2月 場所:第53回青梅マラソン大会会場
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和58年2月)
(2) 事業の目的	国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等の受入れを、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等に対する、おもてなしを通じて、更なる国際交流を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	中国北京市より9名が参加
(5) 事業経費(決算額)	日中友好協会に対応したため市としては特に経費は発生していない。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市日本中国友好協会 参加人数: 歓迎会(23名)、前日・当日(5名)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日中友好協会は市民レベルでの交流を行っており結びつきも強いため、外国人招待選手について青梅市との協働事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 来青までの事前調整、宿泊先の確保等 行政側: 大会へのエントリー、大会前日、当日の誘導等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

青梅マラソン大会を通じた市との協働により、北京市の方々との交流を更に深めることができた。

行政側

普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、事前調整や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。

行政側

青梅マラソン(スポーツ)交流を継続していくため、今後も受入体制等の役割分担を適切にしていく。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年10月15日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京都行政書士会多摩西部支部 参加人数：3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側 行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。

行政側 相続、遺言に関する相談を図れた。
相談者数11人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。

行政側 行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年4月28日(土) 午前11時から午後5時 場所：イオンモール日の出催事スペース
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。			
行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談者数14人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年10月1日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	(公益社団法人)全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側 消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。

行政側 市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。
相談者数30人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。

行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-------------------------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成30年10月25日(木)・12月13日(木) 午後5時から午後8時10分 場所：市役所2階会議室
2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額) 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数：各回1人 計2人
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 日本司法支援センター(法テラス)からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。

行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。
相談者数10人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	相続税等無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成31年1月10日(木) 午後1時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成29年3月)
(2) 事業の目的	相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相続税等の相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	税理士による相続税等無料相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京税理士会 青梅支部 参加人数：2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京税理士会 青梅支部からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 税に関する諸問題に関する相談に応えることできた。			
行政側 税相談を行うことにより、市民が抱えている税に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数12人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 税相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への税相談の機会をふやすために開催したい。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年11月3日(土)・4日(日) 午前10時から午後4時 場所:永山公園グラウンド(青梅産業観光まつりに併設)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年8月)第1回実行委員会開催月
(2) 事業の目的	『「楽しもう日々のくらし！みんなの未来のために！」～みつけてかえろう 楽しむヒント～』をテーマに、消費生活に関する知識や情報を発信し、1人1人が自立した消費者になるための啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、生活の中で知ってもらいたい情報(消費者関係、行政関係)を展示、催し物等により発信する。
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー:パルシステム東京、コープみらい・みらいひろば青梅新町、実行委員会、ボランティア協力団体、人権・行政相談、交通安全・防犯・ちょこっと共済、食品ロス啓発、男女平等参画社会、自治会連合会、ごみの減量他 クイズ(2日間1,500人)、おもちゃの病院、消費者相談、消費者クイズ、食品衛生啓発、フードドライブ、アンケート(ラスク・サブレ配布)
(5) 事業経費(決算額)	922,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「生活協同組合パルシステム東京」12人、「生活協同組合コープみらい みらいひろば青梅新町」12人、「都立青梅総合高等学校」6人、「都立多摩高等学校」1人、「都立青峰学園」
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度まで消費生活展として実施していたが、婦人会団体がなくなったため、平成17年度からは「市民のくらし展」として、実行委員会を組織して開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: くらし展実施企画・運営、啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側: 実行委員会会議の設定、くらし展会場の総括、準備、整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

2日目は途中から雨が降りだしたが、多くの来場者があり、テーマに沿った展示等を行い、消費者についての情報発信や消費者啓発ができた。高校生ボランティアは、ウォークバルーン活動やクイズコーナー運営などの啓発活動を通して、消費者としての情報を学ぶ機会となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

ラスク等を来場アンケートの回答者に配布する形にしたが、アンケートを実施することで、くらし展についての感想等を聞くことができ有意義だった。実行委員会として協力する団体が減少し、また協力団体の構成員も減少してきているため、くらし展の実施は負担が大きくなってきている。新しい協力団体の募集等が必要。

行政側

一昨年度から実行委員会の構成団体が2団体となり、企画運営等で構成団体に負担増にならないように事務局も協力して実施できた。構成員の減少等による本事業への負担を軽減するためにも、協力団体を増やす必要があるが、希望する団体がいないのが現状である。実施内容等の見直しも今後必要になってくると考える。また、高校生ボランティアでは、多摩高校は他のボランティアとして活動してため、協力体制が難しくなっている。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課防災係
------	----------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年1月20日 場所： 青梅市役所2階204～206会議室、災害対策本部室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年1月)
(2) 事業の目的	1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、自治会員の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの自治会員の参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容(実績値等)	○講演内容 自助・共助で取り組む地域防災～災害が起きた時に必要なこと～ (講師:NPO法人日本防災士会参与 大澤サユリ)
(5) 事業経費(決算額)	59,675円(講師報償金、印刷費用)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数： 298人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	防災意識の向上をきっかけに自治会の活性化を図り、自治会加入を促進する
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 各自治会への参加協力チラシの配布と呼び掛け 行政側： 市民、関係機関等への周知

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市と連携を図り、講演の実施をすることにより、運営や災害時の防災知識を習得することができた。

行政側

市と自治会連合会が連携を図ることができ、市民の防災意識の向上を図ることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

公助には限界があることを常に意識し、自助、共助が災害時での初動に必要不可欠であることを広く自治会員に周知するとともに、いかに多くの参加者と防災訓練を実施することが出来るかが課題。

行政側

より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年5月9日、7月19日、11月26日、平成31年2月21日 場所：市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	協働事業実施結果について意見をもらう。今後の協働のあり方等について意見をもらう。
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金90,000円(@10,000円×9人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティア・市民活動センター 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 提案や意見の発表 行政側： 会議の事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働事業がこれからの行政サービスや町の活性化に大きく必要であるという考えは一致していると思う。実際は各担当課の認識の課題やこれからの具体的な進め方などを話し合える場となってきている。</p>			
<p>行政側 多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会が出された市の協働に対する意見を、庁内協働推進会議への報告書として提出するようにまとめを行った。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 協働という事業の進め方の学習や市民団体を支援するシステムや場所をつくっていくこと。庁内推進委員会との連携をとり、それぞれの課題について意見交換や学び合いをすることが必要です。</p>			
<p>行政側 委員会で出された市民委員の意見をまとめ、庁内会議に文書で報告するようにまとめを行った。今後は、それを各施策へ反映させていくことが課題である。具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。事務局として会議の運営について調整し、実践できる方策を整理していきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2018	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年9月16日 場所： 市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民が様々な形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示、模擬店出店、バザー
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市社会福祉協議会 参加人数：
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 事業実施、広報活動（広報おうめ以外） 行政側： 作業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

年に一回、団体・施設間、団体と市民間の交流を図るという意味での効果があったと考える。来場者数も4,000人を超え、益々の発展を期待できる。また、昨年度は日本各地で大きな災害があり、このような大きなイベント内で、募金や被災地特産品の物品販売をできたことは意義があると思う。

行政側

役割として、広報掲載・周知を行った。多くの来場者をむかえ、ボランティア団体の活動状況などについても周知でき、有意義であった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・当日の駐車場の運営については、トラブルになりやすいと考えた。案内係の配置や、案内方法の改善など、当日の運営をより効率的に進めるための事前打ち合わせを徹底したい。
- ・参加団体が、例年固定となっている印象がある。これは、お〜ちゃんフェスタの前身である「ふくし祭」の影響により、「市内福祉施設・団体が参加する」という印象を持っている方が多いためと考える。今後は、ボランティア団体の参加促進のための方法を検討したい。

行政側

フリーマーケットの団体についての苦情が2件あった。事前説明会にて注意願いたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年3月27日 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化することで新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民活動団体が安定した活動を行い、持続的に発展していくために
(4) 実施内容(実績値等)	災害時に私たちができること～災害ボランティア活動～講演会 講師: 東京ボランティア・市民活動センター 阿部宏大氏 青梅ボランティア・市民活動センター 小林理人氏
(5) 事業経費(決算額)	市民活動団体支援講座講師報奨金30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画・受付・運営 行政側： 企画・受付・運営・広報

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 災害時における市やボランティアセンターの体制、東京ボランティア・市民活動センターが関わった事例や対策など、災害時の基本を、実例を交えながら、学ぶことができたと考える。後半の質疑応答では、「自治会の加入・非加入による対応の違い」について議論がなされたが、市民同士の積極的で、率直な意見交換が行われたことは意義があると考えます。</p>			
<p>行政側 ボランティア・市民活動センターでの周知をしてもらうことで、各団体に周知することができた。自治会の代表者意見は活発であったが、自治会活動支援につなげることの難しさを感じた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 参加者数がより多くなれば良いと考える。市民活動団体の中には、「自分の団体と災害は関係ない」と考える方もいたのではないかと。テーマ設定も大切だが、防災意識を高め、「自分事」として捉えてもらうために、今回のような講演だけでなく、普段からどのように意識づけしていくかも課題となると考える。例えば、災害についての講演も今回だけでなく、年に数回実施していくなど、防災をより身近に感じてもらえるような対策が望まれる。</p>			
<p>行政側 今回の講演は、団体への支援につなげること、自治会活動支援につなげることの難しさを感じた。今後も講座内容について青梅ボランティア・市民活動センターと考えていきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年6月、9月、12月、平成31年3月 (年4回発行) 場所： 小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的	おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容(実績値等)	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費(決算額)	188,618円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： おそきの学校と地域を考える会 参加人数： 34名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側： 経費の負担、配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

地域課題を共有し地域の一体性を高める効果は、紙媒体を使い、全戸配布にすることにより高齢者まで高まること、「平成29年度おそき全員アンケート」でわかった。「広報おうめ」に近い周知度を確保している。また、毎発行号をファイルし家庭に保存してくれているご家庭もかなりある。地域が主体となりながら協働で行われる好事例となっていると考える。

行政側

協働で発行することで、行政だけでは行えない市民の身近な情報や地域の課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市内各地域が主体性を持って取り組みを行うような機運の醸成を図れるよう展開したい。令和元年度は、今まで以上に高齢者の地域参加感を向上させるため、高齢者クラブへの寄稿依頼も行き、全ての世代がより参加できる紙面にしたい。

行政側

地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。また、他地域への波及効果を期待したい。

事業の様子(写真等)



編集会議の様子



紙面の一部

協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年4月)
(2) 事業の目的	男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(4) 実施内容(実績値等)	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行(年2回)を行う。
(5) 事業経費(決算額)	906,528円 (印刷製本費602,640円、配送手数料245,888円、謝礼金48,000円、報償品費10,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：mamanicotto、NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、市民一般公募（1人） 参加人数：各団体1人ずつ計1人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

現在市民に関心のあるテーマについて、市民と行政側が十分話し合い進めていくことができた。取材も行政側の幅広い情報と専門知識に助けられてスムーズに行うことができた。

行政側

市民と協働で発行することにより、協働する市民のそれぞれの得意分野を生かすとともに、市民目線のわかりやすく読みやすい情報紙が発行できた。また男女平等参画にかかわる意見交換の場としてもよい機会である。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

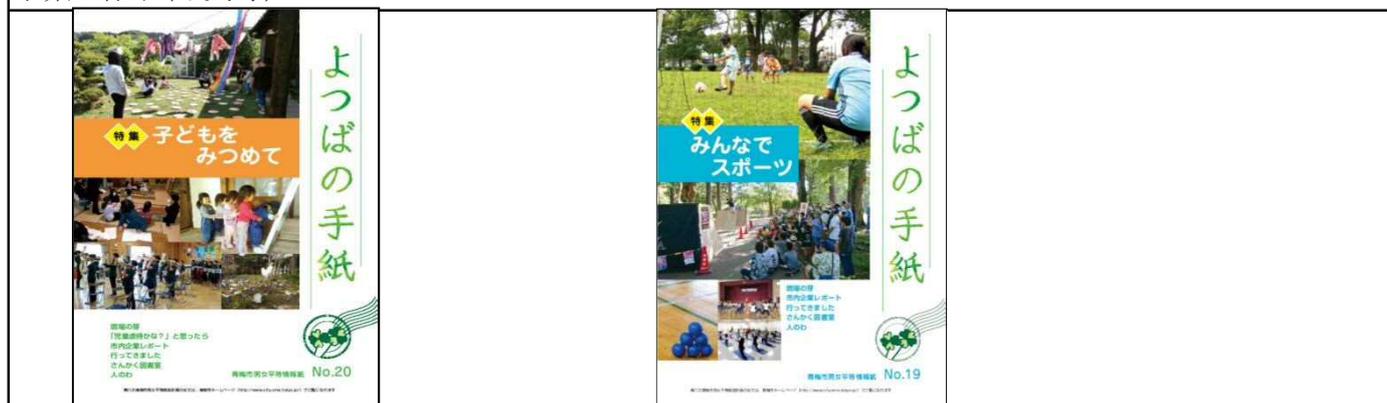
市民側

委員会の日程調整から取材先の設定、編集のまとめなど行政側の負担が多かったと思う。読者の感想を聞き、希望するテーマなど取り入れていきたいと思う。

行政側

男女平等参画社会の実現を目指し、行政が発行する情報紙として、表記や表現に配慮しつつ、市民にとって身近でわかりやすい内容の情報紙を発行することが重要である。協働する市民側のライフスタイルに配慮した運営が必要である。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回:平成30年8月3日 第2回平成31年2月1日 場所： 青梅市民センター多目的室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年 月)
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	センター利用率の向上および効果的な運営
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況・生涯学習事業実施状況・市民センターの運営等についての協議
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター運営協議会謝礼金 90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第1支会・市立第一小学校PTA・センター利用団体・公募委員等 参加人数： 10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営に関して協議する 行政側： 協議会の提案等により効果的な活用を図る

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
文化交流センター移転に関する状況等について知ることができ、地域住民との相互理解に役立っている			
行政側			
市民センターおよび天ヶ瀬体育館の管理運営等について率直な意見を得られる良い機会となっている			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
当協議会で出た意見やアイデアが文化交流センターの運営に役立つようにしていきたい			
行政側			
運営協議会の意見を尊重し、文化交流センター内での青梅市民センター運営を円滑に進めていく			
事業の様子(写真等)			
なし			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年11月24日・25日 場所： 青梅市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 月)
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図る機会とする
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露等(延べ来場者650人)
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター文化祭消耗品 9,835円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 22団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表・交流の場を設け、親睦の輪を広げるため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 年5回の実行委員会に参加し、文化祭の内容について協議を行う 文化祭の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

青梅市民センターでの最後の文化祭が協働で行われたことにより、文化交流センターへと繋がる催しとなった。

行政側

普段は貸館業務が主のため、このようなイベントは、利用団体と交流できる良い機会となっている。利用サークルの紹介冊子の作製も、利用団体とのネットワーク構築が必要不可欠である。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

文化交流センターでも、市の総合文化祭と連携した、利用サークルの活動発表の場があると良い。

行政側

青梅市民センター文化祭で生まれたネットワークを、文化交流センターへと引き継いでいきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	サークル共催講座	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年4月～平成31年3月 場所： 青梅市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(29年 9月)
(2) 事業の目的	①市民センター利用団体との共催講座を行い、サークル活動の活性化、センター利用率の向上を図る。 ②生涯学習の基礎づくりの一環として、誰もがいつでも学べる場を提供し、生きがい寿命を延ばす。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用サークルの活動活性化 青梅市民センター利用者および利用率の増加
(4) 実施内容(実績値等)	実施講座:①英語教室 ②フラダンス教室 ③尺八体験教室 参加者数:①15名 ②28名 ③56名
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 金曜英語クラブ・アネラレイ・月曜クラブ 参加人数： 合計 99 人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	高齢化に伴うサークル会員数の減少、活動規模の縮小が目立っていたため、市民活動支援の一環として、協働による講座企画を立案した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ①広報原稿、チラシ等の作成 ②当日の運営、必要物品の用意 ③講座後の継続参加の調整 行政側： ①広報の掲載、チラシの配布 ②会場の確保 ③申込みの受付、講座運営のアドバイス

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

広報面を行政側がサポートしてくれることで、安心して講座を企画することができた。また、講座運営に関するアドバイスも的確で、頼りになった。

行政側

講座受講生が青梅市民センター文化祭で発表を行うなど、他事業と連動させることができた。これは、学習成果をしっかりと認定するという意味で、特に有意義であったと評価している。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

文化交流センターでも活発な活動を続けていくため、引き続き協働の理念を大事にしてほしい。

行政側

青梅市民センター・永山ふれあいセンター・釜の淵市民館の統合に伴い、各施設利用団体は文化交流センターへと活動の場を移した。今後は、新施設でもサークル同士の連携や繋がりが生まれるよう、工夫していく必要がある。

事業の様子(写真等)



①英語教室



②フラダンス発表



③尺八教室

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成30年7月20日、 第2回 平成31年3月7日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 65,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: センター運営全般について協議する 行政側: センター運営全般について協議する

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にしたい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			
事業の様子(写真等)			
無し			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成30年11月10日、11月11日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(5) 事業経費(決算額)	支出額:18,419円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵地区文化祭実行委員会 参加人数:29団体および個人出展6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地城市民の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側: 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。

行政側

市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

発表の場所等のより良い会場づくり。

行政側

参加団体、入場者数の増加方法の検討。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回(平成30年7月26日) 第2回(平成31年2月21日) 場所: 大門市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的な活用および適正かつ円滑な運営について協議をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の団体や利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方についてや、大門市民センターの利用状況、住民票等の交付状況、文化展の開催等の行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	80千円(運営協議会謝礼金)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第三支会1名 スポーツ推進委員1名 子供会育成会1名 防災対策委員会1名 霞老壮大学1名 参加人数: 小学校長1名 保育園園長1名 利用者団体1名 公募委員2名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域の特性や住民ニーズに応じた市民センター運営と地域の市民活動団体の拠点としての活用に向けたセンターの運営全般について提言をする。 行政側: 提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの効果的な活用とサービスの向上について意見交換が出来た。要望を伝え易くはなったが、予算の関係から、要望が実現に結び付かない事項もあった。			
行政側			
市民センターが地域に密着している関係から、市民の声が行政に反映された。行政から地域へ向けた色々な情報の発信源として、市民センターが地域の拠点として有効な存在であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
活発な発言が出来るよう相互の信頼関係をより深める。			
行政側			
市民センターをよりよく利用してもらうために、協議会の意見を尊重して運営に務めていく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年11月17日・18日 場所:大門市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	大門市民センター利用団体および地域住民の活動成果の発表の場とするのと、地域市民に活動を紹介することで市民センターを交流の場として、団体と住民との親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動および地域住民の発表の場として
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体と地域住民の作品を展示、発表する事と大門地域のふるさとまつりと同時開催する事の相乗効果で2,930人の観覧者が訪れた。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 8千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 大門市民センター文化展実行委員会 参加人数: 128(参加団体加入者および実行委員)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性の向上と活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 団体代表者が実行委員として会の運営に当たる。前日および最終日に行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。文化展開催中は各団体交替で受付に当たる。 行政側: 実行委員会を開催して協議を行なう。展示等に必要な消耗品等を用意する。展示パネルの設営・撤去を行う。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

活動発表の機会があることで、多くの来場者に活動の成果を見てもらうことが出来た。展示に至るまでのプロセスを行政側と協働することで、意見を述べやすくなった。

行政側

施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることが出来た。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

参加者の高齢化が著しく、活動を継続するのが難しくなっている団体があるので、発表の場を兼ねて新規の加入を促す活動を行う。

行政側

来場者を増やすための方法を検討する。



協働事業評価シート(表)

事業名称	地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成31年3月23日 場所:大門地区	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年2月)
(2) 事業の目的 地域に住む人同士の交流と親睦を図り、身近な地域の歴史を学ぶ。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多くの市民の参加により、幅広い年齢層と交流し親睦を深める事が出来た。	
(4) 実施内容(実績値等) 霞川下流域から大門市民センターまでを散策しながら、講師から地域の成り立ちから現代に至るまでの歴史を学んだ。	
(5) 事業経費(決算額) 7千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:霞川くらしの楽校 参加人数: 1名	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 大門地域(霞川流域)を活動拠点としていたので、事業を実施したい旨を相談したところ、目的が合致したため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 講師との連絡調整 事前協議 当日の引率 行政側: 事前協議 広報等での周知と参加者募集 当日の資料準備と引率	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>地域で活動している団体なので、地域住民との交流と団体活動の内容を知ってもらうことによって団体への賛同を得られた。</p>			
行政側			
<p>身近な地域の歴史と自然が題材なので、地域住民の興味を誘いやすく交流を図る機会となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
<p>市民に活動を伝える機会となるので、より広い地域を対象として今後も協同事業を行いたい。</p>			
行政側			
<p>テーマや場所を替えながら、大門地域を広く知ってもらえるように協同事業を実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成30年9月6日(木)、第2回 平成31年3月8日(金) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円(第1回 5,000円×9人、第2回 5,000円×10人)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、五小PTA 1名、青梅女性防火防災の会 1名、利用団体 2名、公募 2名 参加人数： 10人(男性7名、女性3名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。

行政側

市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。

行政側

当協議会は形骸化しており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。

事業の様子(写真等)

行政側からの情報提供に対し、市民側は理解を深め、良い意見交換が行われている。

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年11月11日(日) 場所：梅郷市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和55年11月)
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。 平成30年度実績:出品数529点 観覧者数508人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 88,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数：24人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：文化祭実行委員会での打合せ、文化祭会場の設営および片付け 行政側：文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある

行政側

施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて市民側との意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

施設利用団体、地域住民の活動成果発表の場としてのより良い会場づくり

行政側

参加団体および入場者数増の方法の検討

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回 平成30年9月7日 第2回 平成31年3月5日 場所: 沢井市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 90千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団団長(1)、高齢者団体(1)、PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数: 9月7日の出席者は9人。3月5日の出席者は9人。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側: 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成30年11月11日(日) 場所:沢井市民センター	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和54年11月)
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数700人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 20千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「第5支会」約10人。「清涼会」(老人会)約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約200人参加。 参加人数:858人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ 行政側: 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片づけ

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。

行政側

事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

若い世代の参加および来場者が少ない。

行政側

市民センター利用団体も高齢者が多いので、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 8月3日(金) 第2回 2月21日(木) 場所： 小曾木市民センター 会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 20年 4月)
(2) 事業の目的	小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	小曾木市民センターの運営を適正・円滑に行い、かつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	小曾木市民センターの利用状況、図書館の利用状況、平成30年度の予算の概要、市民センターの教室・文化祭等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 75,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:自治会連合会第6支会3人、青少年委員1名、民生委員1名、市民センター利用団体3名、公募委員2名 参加人数: 延べ 15人 (第1回目 7人 第2回目 8人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 地域の発展に向けて市民センターのあり方について検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
住民や施設利用者の意見や要望を伝えることができ、かつ、運営状況が掴めた。			
行政側			
率直な意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供と、利用者の意見や要望の反映			
行政側			
形骸化している面もあるが、住民からの意見や要望を把握する場とし、センターの運営に反映させていく。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年11月10日、11日 場所：小曾木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 20年 4月)
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小・中学校総合学習の成果発表、農産物の展示、販売を行った。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金で運営している。 平成30年度支出額 15,044円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数: 参加団体18団体、一般観覧者631人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作品の展示片付け 行政側: 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。

行政側

行政と市民とが協同して文化祭を実施するなかで、市民にとって市民センターがより身近な存在となる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体および文化団体が高齢化等の理由から解散や参加を取り止めるなどにより、参加者が減少傾向にあるが、参加者等を増やす方法を検討していきたい。

行政側

土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので続けたい。これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年8月1日、平成31年3月7日 場所：成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(H20 年 4 月)
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成30年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成30年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況について・平成31年度市民センター予算の概要・平成31年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会、第7支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会、施設利用団体のスポーツ団体・文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年11月10日、11日 場所：成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(H17 年 6 月)
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	73千円(72,722円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：成木地区文化祭実行委員会 参加人数：30団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。

行政側

行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。
より親しみやすい市民センターへ

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

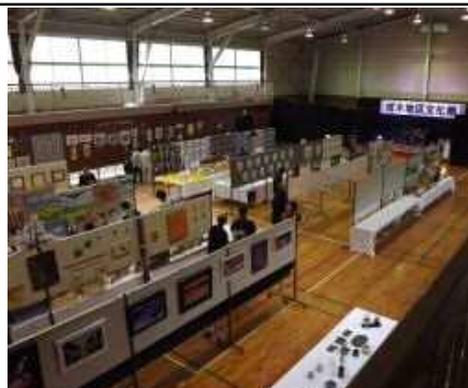
市民側

文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき

行政側

土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。
地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年5月27日 場所：成木市民センター～常盤林道
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(2007年8月19日)
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数300名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数：279名(レース参加者(棄権等除く))
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側：準備品用意、交通整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

相互理解、地域の親睦、つながりが深まる

行政側

行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要

行政側

駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成30年8月2日 第2回 平成31年2月7日 場所： 東青梅市民センター第1会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策第八支会地区委員会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名、女性防火防災の会1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人青梅こども未来1名、公募委員2名 参加人数： 延べ20名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を検討する。 行政側： 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対し、利用者の視点での意見や要望を伝えることができた。			
行政側			
市民の代表から率直な意見が聞けるため、市民センターの運営に反映することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
東青梅市民センターが移転・複合化される計画になっている、東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想について、ホールの形態なども含め、利用者がより使いやすいものとなるよう、今後の動きに注視していく。			
行政側			
これまでは利用者側の意見等を運営協議会で集約し、その役割を果たしてきたが、最近では形骸化してきている。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年10月27日(土)、28日(日) 場所：東青梅市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	市民センター利用者および地域団体などの文化活動の成果を発表する機会を設け、地域の文化活動の向上を図っていくこと。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の文化活動の向上および地域住民相互の親睦を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センター利用団体および一般公募等の作品等の展示、演奏。 作品数 739点および50曲の披露(ささえあいフェスティバル作品数を含む) 来場者 1, 117人
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 31, 050円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数：24人(参加団体数+支会長)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域文化の向上および成果の発表の場
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会委員、各団体の作品選定および飾付、会場設営、団体内の連絡・調整 行政側：会場の確保、広報、作品公募、文化祭運営、実行委員会の開催、展示資材(パネル等)の確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	2

(11) 協働による効果

市民側

・小中学校生徒、保育園児の作品を展示したことで、若い父兄の来場者が増え、これまでのセンター利用者の文化祭から賑わいが生まれ、自治会活動等の理解につながった。

行政側

・第八支会ささえあいフェスティバルを同時に開催したことにより、それぞれの相乗効果が良い方に働き、参加者の大幅な増員につながった。
・実行委員会を設置することにより、参加団体との意見交換ができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

・来場者に対応できる十分な駐車場対策が必要。

行政側

・穴あきパネルの要望が多いため、方法を検討する必要がある。(順番で行っていたが、守られない)
・演技披露を聞くマナーがなっていないとの意見があった。また、休憩場所がほしいとの要望があるため、それぞれを解決する方法を検討する。
・ささえあいフェスティバルと同時開催していることから観覧者が増えている。改善を図り、このまま継続して同時

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

- ・自治会関係者や小中学校生徒、保育園児など地域で活動する者たちでそれぞれの役割を果たし、みんなで盛り上げることができた。
- ・来場者にそれぞれの団体がどのような活動をしているかを周知することができた。

行政側

- ・センター文化祭との相乗効果が図れ、文化祭来場者が大きく増えた
- ・多くの団体が参加しセンターとしてもメリットが大きい

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・多くの来場者が来られたが、駐車場と施設内の空きスペースが狭く、せっかくの催しを十分楽しむことができなかった。

行政側

- ・事業について十分な話し合いができず、役務分担も不明確であった。
- ・演技披露団体とのつながりができ、センター事業として活用していきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	はじめてのUVケア教室	担当課	1 市民活動推進課 2 東青梅市民センター
------	-------------	-----	--------------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 平成31年3月9日 場所： 東青梅市民センター	
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 親子のスキンシップをはかると同時に、子育て中のママに子どもの肌の特徴や正しいUVケア方法について、実践を通して学んでもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 親子のスキンシップを図りながら、乳幼児の肌の特徴や、ケア方法を実践する。	
(4) 実施内容(実績値等)	
1 乳幼児の肌の特徴、UVケアの必要性の説明 2 子どもと触れ合いながらUVケアの実践 講師 1人 補助 1人 ボランティア 2人	3 簡単なストレッチ 4 質疑応答 参加人数 9組 21人(当日受付表が見当たらず、後日確認)
(5) 事業経費(決算額) 講師報償金 講師 6,000円 補助 3,300円 計 9,300円(市基準)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： ままにこっと 参加人数： 3人(講師1人、ボランティア2人) 補助講師 1人(協働団体以外から)	
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ ままにこっとスタッフが持っているそれぞれのスキルを生かし、市民活動団体の活動を市民に知ってもらう。また、親子の絆づくりを図りながら、乳幼児の肌の特徴などを親に学習してもらい子育てに活かしてもらうため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 講師・ボランティアの確保、ホームページ等を利用した事業の広報、教室内容の企画・提案・運営、教室で使用する材料・消耗品の用意 行政側： 講師報償金の負担、会場の確保、参加者の受付、事業の広報、行政が用意する消耗品	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

- ・事業実施前より行政側との十分な話し合いによりスムーズに広報への事前告知をすることができた。
- ・多くの親子に教室を通して子どものスキンケアに興味をもってもらうきっかけとなった。また、「ままにこっと」を知らない方に団体の活動について周知を図ることができた。

行政側

- ・スタッフが少ない市民団体ではあるが子育て世代に団体を知ってもらうことができている。
- ・団体の持っているスキルを十分に生かしている。
- ・親子のスキンシップが図れたとともに、子どもの健康についての知識を伝えることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・定員15組に対して9組と定員に満たなかった。「ままにこっと」を知っている方は9人中1人のみであったため子育て世代への積極的な団体周知と告知方法の検討
- ・特技や資格をもったママを発掘し親子で参加できる教室を開催していく。

行政側

- ・地域には埋もれてしまっている団体が少なからずとも存在している。そのような団体を発掘して連携することが必要と感じた。(ボランティアセンターを上手に使うことが必要)
- ・事業実施後、参加者からアンケートをとったが、乳幼児がいる世代は親子参加型の事業を望んでいることが多かった。この意をくんだ事業実施が必要である。
- ・目標設定が高すぎたので事業内容と実施場所を考慮する必要がある。(今回の参加人数は、適正であった。)

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年8月16日(第1回)、平成31年3月7日(第2回) 場所： 新町市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(20年 4月)
(2) 事業の目的	新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	新町市民センターの利用利便性および利用率の向上を図る
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円(第1回 40,000円 第2回 45,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:自治会連合会第9支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、青梅市スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、 利用団体代表2名、市民公募2名 参加人数: 委員定数10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に()
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。 行政側： センター事業の実施状況について報告するとともに必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者の意見を行政に伝え、運営に生かすことができた。			
行政側			
市民センターの運営等について地域や利用団体等からの様々な意見や要望を聞くことにより、センター運営に資することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
これまで以上に利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望してくるとともに具体的改善策などさらに積極的に関わっていくことが必要と思われる。			
行政側			
地域や利用団体からの意見集約とその反映は重要であるが、近年協議会がやや形式化してきていると考えられ、各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	--------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年11月10日～11日 場所： 新町市民センター本館および体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、地域の文化活動の発展を図るとともに地域住民の交流とコミュニティ活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域住民等の文化活動の成果発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。 数値目標： 参加団体20団体、体育館入場者数 2日間合計750人
(4) 実施内容(実績値等)	作品展示、舞踊・演奏・詩吟等の演技、模擬店および地元農産物等の販売など 実績： 参加団体数 20団体、個人参加4人、 体育館入場者数 2日間合計677人
(5) 事業経費(決算額)	支出決算額 73,567円(消耗品費、パネル運搬費、文化祭用白布等洗濯代等)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：新町末広町地区市民文化祭実行委員会 参加人数： 46人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に()
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。 行政側： 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備を行う。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域の交流が図られている。

行政側

地域の方々の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

参加団体の固定化や高齢化もあり、一部マンネリ化している。地域の活性化のためにも、参加者の範囲、規模の拡大が求められる。

行政側

参加者、来場者がより楽しめる文化祭とすべく、新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ共催事業	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-----------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年5月26日、7月28日、8月18日、11月18日、31年1月12日、3月23日 場所： 新町市民センター、3月23日はボーイスカウト第3団野営場
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(20年 4月)
(2) 事業の目的	日本環境協会こどもエコクラブ登録団体のおうめこどもエコクラブと共催で市内の子供たち及びその保護者を対象として講座を開設し、自然環境保護等について楽しく学ぶ場の提供を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	楽しくエコ、自然環境保護等について体験講座や見学会を通じて学ぶ 目標：年間6回程度実施、参加者述べ120名
(4) 実施内容(実績値等)	体験講座6回 述べ参加者 135人
(5) 事業経費(決算額)	おうめこどもエコクラブが負担(材料費等実費の一部について参加者から徴収)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめこどもエコクラブ 参加人数： 講師、スタッフ 6回述べ33名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめこどもエコクラブの新町市民センター利用による、講座開催のための施設利用申し込みをきっかけに、年間を通じた子供向けのエコに対する講座を開催し、地域活動の活性化にもつなげる。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に()
(6) 役割分担	市民側： 体験講座、見学会等の企画、運営 行政側： 体験講座、見学会の周知、PR及び会場確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

子供のころから自然環境保護を考えるの取り組みとして体験講座を開催するにあたり、行政と共同することにより、会場確保がスムーズに行えたとともに、周知PRについてより広く周知することができた。

行政側

地域の子供たちを中心に自然環境保護の大切さを勉強するとともに、他地域からの子供保護者の参加も多く、センター事業の拡大にもつながっている

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

さらに楽しく学べる講座や見学会に取組、参加者の拡大を図るとともに、開催地域の拡大の検討も必要と思われる。

行政側

楽しく学べる場としての体験講座をさらに充実するとともに、エコや事前環境保護について地域の子供たちや保護者に対しても広く周知を進めていくことが必要とされる。

第1回

「バンダイ」のおもちゃから学ぶエコ



第2回

ミクロの世界を探検しよう



第3回

夏野菜を使ったエコなクッキー



協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成30年6月21日(木)、第2回 平成31年2月26日(火) 場所： 河辺市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況、河辺市民センター文化祭等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金75,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第10支会役員2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、スポーツ推進委員1人、都営住宅代表1人、民生児童委員1人、公募委員2人 計10人 参加人数： 延べ15人(第1回9人、第2回6人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側： 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を得るうえで有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員の意見交換をとおして、市民センターに効果的な活用方法を検討する。			
行政側			
各協議会において意見交換は行っているが、同様のことの繰り返しとなっており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			
なし			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年10月20日(土)、10月21日(日) 場所： 河辺市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和61年11月)
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センター利用団体の発表の場を設け、地域住民の親睦を図るとともに地域コミュニティの醸成を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店 2日間の延参加者数 1,403人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 11,442円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 28人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 会場準備、片付け。来場者受付、駐車場管理。 行政側： 参加団体呼びかけ。日程調整、会場確保。展示用資材、音響設備等の提供。舞台発表プログラム作成。許認可申請手続き。広報。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民センターを拠点とする団体や地域住民の発表の場ができ、多くの方に見てもらうことができた。

行政側

場を提供することにより、利用者とコミュニケーションが図られた。
市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体、地域住民がより多くの参加、発表をすること。
参加者の高齢化による力仕事を伴う準備、片付けが負担となってきた。

行政側

参加団体、地域住民参加の増加

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回（平成30年7月5日）、第2回（平成31年2月26日） 場所： 今井市民センター会議室
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成30年度の予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 計10人 参加人数： 述べ18人（第1回10人、第2回8人）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。

行政側

市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。

行政側

当協議会は形骸化しており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年11月3日（土）、4日（日） 場所： 今井市民センター体育館、和室
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成13年11月）
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。また、より多くの来場者数を旨す。（昨年度360人）
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い、また、来場者増加策として、同時開催しているふるさと祭りでのスタンプラリーを試行し、637人の来場者を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展実施のための消耗品費 13,867 円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 今井市民センター文化展実行委員会 参加人数： 延べ152人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会長の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側： 会場の確保と展示用具等を提供する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。また、チャリティー作品販売の売上金を社会福祉協議会に寄付できた。

行政側

施設利用団体の活動内容の把握と交流を図ることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体のより多くの参加、出展、発表

行政側

出展、発表者へのより良い環境づくり。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成31年1月27日（日） 場所： 霞丘陵ハイキングコース
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年1月）
(2) 事業の目的	市民の体力増進、健康保持と合わせ霞丘陵の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	体力増進、健康保持を目的として霞丘陵ハイキングコースを中心に歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。昨年の参加人員（91人）を上回る参加者を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターおよび第11支会の協働により実施。天候に恵まれ当初の予定どおり「霞丘陵ハイキングコース～埼玉県境を歩く～」により、ウォーキングを楽しみ、全員無事に帰還した。134人参加。
	支出なし（青梅市自治会連合会第11支会体育振興経費より支出）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第11支会 参加人数： 青梅市自治会連合会第11支会 39人、スポーツ推進委員2人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民の体力増進、健康保持と合わせて霞丘陵の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。第11支会を中心に参加者を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式、閉会式の進行、ウォーキング中の運営、おしるこ・コーンスープの調理配布等 行政側： コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民の体力増進、健康保持と合わせ、霞丘陵の自然を体感し、より地元を身近に感じるとともに、参加者相互の親睦を図ることができた。また数値目標も十分達成できた。

行政側

行政と地域との親睦と協力を深めることができた。また数値目標も十分達成できた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。

行政側

次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2018	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年6月1日(金)～6月30日(土) 場所:6/3、6/9市役所 6/3～6/29市庁舎ロビー 6/1～6/30中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	14,488円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2018実行委員会、ボランティア等 参加人数:100名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

計画段階の(1)(2)(3)(8)の評価を4としたが、これは市民側の話し合い、工夫などの体制が十分でなかったという評価です。(10)の評価4は、反省会で市民側の市への要請や企画内容への評価など議論百出したが、これを更に協働の会議で纏め上げていけなかつたが、これは主に市民側の取り組み不足と思います。しかし、事業としては11年を経て中央図書館での6月環境月間中の環境コーナー設置、一昨年度まで多目的室のパネル展示とミニ講演会などの協働取り組み、その後パネル展示は市庁舎1Fロビーとなったが、基調講演会や霞川と青梅の森のフィールドワークなど月間を通じて事業が続いている他の自治体に無い、青梅スタイルは市民の皆さんにも認知されてきました。

行政側

6月3日に実施した環境体験学習イベントでは、昨年度に引き続き市役所の本庁舎を会場としたが、大きな問題も無くスムーズに開催ができた。今後も引き続き本庁舎で実施していきたい。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

おうめ環境市民会議の拡充刷新が鍵になると思いますが、実行委員長の人材不足、参加団体の減少など憂慮すべき状態が続いています。7～8月に広報おうめやミニコミ紙やケーブルTVなどを通じて、一斉にもっと広く青梅市民に呼びかけて、新しい市民団体や個人が参加して環境フェスタ検討会を立ち上げる時に来ているように思います。

行政側

昨年度に比べ参加者数が大きく減少した。他のイベントと日程が重なった等の要因も考えられるが、広報の方法等を工夫してより多くの集客を図りたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年3月15日発行 場所:市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年6月)
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成29年度における市の取り組みおよび市内の環境活動の紹介を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費(決算額)	407,147円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側: 記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側

市民・行政の双方で青梅市の自然環境の現状と課題の認識をすり合わせることができた。その結果、市民が認識しやすい内容や表現にまとめることができた。異なる角度から検証することでより確実な内容にすることができた。

行政側

市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

環境保全意識の啓発につながる内容確保と表現の向上。
目をひく写真や紙面構成等のデザインの向上。

行政側

紙面を作成する方法について検討する必要がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	---------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年5月1日～平成30年9月30日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1,274円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。
(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。

行政側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。
(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年7月23日～平成30年8月1日(打ち水ウィーク) ※7月26日に打ち水実施 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 打ち水の実践 行政側: 企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

行政側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年11月1日～平成31年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1,210円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。

行政側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。

行政側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテン事業	担当課	環境政策課 管理係
------	------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年4月15日～10月20日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:西東京農業協同組合かすみ直売センター、青梅ガス株式会社本社
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭を対象にみどりのカーテンモニターを募集。地球温暖化防止のため、家庭でできる省エネの取組みとして、みどりのカーテンづくりを紹介し、育成のためのゴーヤの苗を配布している。また、葉を上手に育成することが遮熱効果等を高めるため、配布時に育成方法の指導を実施している。育成後は、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバックし、活用している。
(5) 事業経費(決算額)	265,990円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側:周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側: 各事業におけるお客様をはじめ、それ以外の皆様へも環境対策でアプローチが可能である。

行政側: みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。受賞作品選定において、JA西東京の専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側: ①規格のマンネリ化、②審査基準・副賞などの見直し、③プロモーションの多様化、④参加者からのレスポンス獲得、⑤表彰式を「青梅ガスお客様感謝祭」とすることの適性判断
以上について、検討していく必要があると考えます。

行政側: みどりのカーテン事業全体を通して、参加者の固定化がみられるため、今後は募集の方法や内容を変更するなどして、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体を増やすよう検討したい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	ワクワク!ドキドキ!!水辺の探検隊 ～達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室～	担当課	環境政策課管理係
------	--	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成30年9月1日(土) 場所:市民球技場周辺の河原
2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等) 川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等
(5) 事業経費(決算額) 250,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 13名
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側

広報おうめで広くPRすることで多摩川で安全に川遊びできることを青梅市の多くの市民の方に知ってもらうことができた。また参加して頂いた方は、ライフジャケットを着用し、天候・水量・濁りなどに注意し、複数人で行動するなどの安全対策が重要であること分かって頂けたと思われる。
イベント実施の判断においては、担当課からは特に安全を意識したご意見があり、一緒に安全な実施方法を検討することができた。

行政側

当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

特にありません。

行政側

荒天の影響で川の水位等が変化し、実施するかどうか難しい判断を迫られかなり時間をとられた。結果的に無事実施することができたが、次回までに中止の判断基準を作成し、それにしたがって実施の可否を決める体制が構築できるよう努めたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年7月29日(日) ※台風の影響で中止 場所:市民球技場周辺の河原
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館(多摩川に棲む魚等の展示や解説)。
(5) 事業経費(決算額)	169,445円 ※準備に要した経費

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 天候不順のため中止となったが、例年、100人以上の参加者があり、とりわけ子ども達が楽しみにしているイベントである。このようなイベントを継続して開催できることは意義があることと考える。</p>			
<p>行政側 協働団体には当日まで準備作業や、関係者との調整、周知活動等を精力的に進めていただいていたが、やむを得ず中止とした。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 イベント中止の判断基準を検討するきっかけになった。</p>			
<p>行政側 実施は断念することになったが、中止の判断基準を整備するよい機会になった。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2018 「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年5月13日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年5月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメのつかみ取り
(5) 事業経費(決算額)	86,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:14名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市との協働事業により事業の公益性などが協調でき、さらに参加者にも良く周知でき、市内を流れる大河多摩川が青梅市民に与える益をよく説明し理解もしてもらうことが出来た。さらにこれからも自然豊かな青梅の多摩川を紹介広めていき、市民が自分で積極的に自然保護活動してもらえるように進めていきたい。そのような意識はかなり広まってきていると思う。

行政側

市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上といった、普段耳にすることのない課題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な経験は、当日の運営に安定感を与えている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

放流鮎を実際多摩川を遡上して来ている江戸前鮎に出来るよう各関係機関に協力を要請、江戸前鮎の確保をしていきたい。それには東京都への働きかけも行い事業の開催時期等の調整も含めぜひ実現したい。現状としては東京都の鮎捕獲可能な6月が良いのではないかとと思われる。(鮎も成長し捕獲、運搬、放流に耐えられるものになっている。)

行政側

江戸前アユの安定的な確保が課題だが、自然のものなのでなかなか難しい。当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	第10回炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年8月21日(火) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年8月)
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等
(5) 事業経費(決算額)	250,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

青梅市共催は市民に安心を与え、青梅市報に募集記事を掲載すると、順調に申込があり定員を超えた。また、ライフジャケットの貸出しや、当日のスタッフとして全面的にご協力を頂く等、共働による効果は絶大であった。

行政側

内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

当日の運営に関しては、経験のある指導員を十分に確保し、安全には万全を期しているが、今後も事故には細心の注意を払って臨みたい。弁当等のゴミについては、各自で持ち帰りを徹底し、引き続きゴミの少量化に努めていく。

行政側

事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。また、炭焼き小屋に老朽化等が見られたので、事業継続の観点からすると改善が必要になる可能性がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	親子魚釣り教室2018 (釣ったらどうする?)	担当課	環境政策課管理係
------	----------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年10月21日(日) 場所:奥多摩フィッシングセンター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年10月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	164,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:5名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市との協働事業により備品等の供与も受け、参加市民をより良い環境のもと指導できたと思う。生きているものを釣りあげ食べることにより、魚たちに人が生かされているという事を伝えようとしている事業であり、より良い学習環境を整えてくれる協働事業はととても有難く、事業の成果も上がった。

行政側

協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の経験も人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

ただ釣りをするイベントでは無く、親子の絆をさらに深めるためにはどのようにしていけばよいのかよく検討していきたい。この時期ならではの自然の美しさを参加者に満喫してもらい、その中で釣りが出来る場所に住んでいることをよく認識してもらい、青梅の素晴らしさを認識させたい。

行政側

昨年度より日程をだいぶ早めた。結果、参加者は穏やかな気候のなかで、自然を満喫しながら存分に釣り体験をすることができたと考える。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 平成30年6月30日(土) 場所: 市内を流れる霞川・藤の木橋と五反田橋の間	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚捕り、ザリガニ捕り、散策など)
(5) 事業経費(決算額)	31,300円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 4名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

参加者募集において発行される広報おうめの力が大きい。人数はそれほどでもないが、一小、三小、四小、今井小、河辺小、新町小、友田小、藤橋小、若草小と霞地区にある小学校域の参加があった。

行政側

子どもたちが自由に参加でき、貴重な体験を提供できるイベントとしてとても有意義なものであった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

近年この時期の水量は少なく、遊ぶ範囲が狭くなり後から来た子どもが遊ぶのに不利が生じていた。それを防ぐため遊ぶエリアを従来の倍にしたが、川に降りる構造が階段であり降りづらい点もあり、効果が上がらなかった。今後は受付時に遊ぶエリアを示して分散を図るようになりたい。

行政側

遊べるエリアを増やすなど、事業の効果が最大限になるよう努めた。結果について検証し、次回も臨機応変に対応する必要がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼう in 霞川(Part10)	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年8月25日(土) 場所:霞川にかかる藤の木橋上流(藤橋1・2丁目、今井小の上流)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年8月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	手作りいかだに乗って川下り
(5) 事業経費(決算額)	80,700円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:7名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

いかだに乗って遊んでいる子ども達の笑顔で全ての答えが出ていると思う。

行政側

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

応募者が10人と少数であった、これは今夏の異常な暑さにより、外で遊ぶことが憚れる社会情勢も有ったのでないか？また実施時期を延期したことも影響しているものと推測される。また「広報おうめ」での募集方法に限界があるのではないかと感じられる。

行政側

夏場の水辺での事業になるため、熱中症対策や安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業を参加してもらうための工夫が必要であると感じた。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	お魚釣りに挑戦しよう	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年9月29日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋と城山橋の間
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	霞川での釣りの体験指導、釣れた魚の説明。
(5) 事業経費(決算額)	20,200円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:4名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

参加者募集手段に広報おうめの力が大、青梅市が絡んでいる模様しものであり参加する子ども達の学校も多岐にわたる。

行政側

参加者が楽しんでいた光景を見ると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。また、参加者全員が何らかの釣果を得られ、満足して帰られたのは幸いであった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

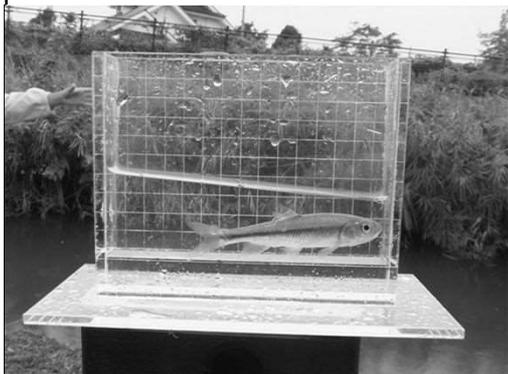
市民側

前年における開催で釣り場のエリアが狭く感じたので、今年は幅広くしたのは正解であった。2019年もそのようにしたい。当日は小雨から本降りに近い降りになってしまったが、野外活動の難しさを感じる、神仏に祈るのみ・

行政側

雨天時の対応をもっと迅速に行う必要がある。川岸がぬかるみ転倒する危険性がある、濡れて身体が冷え参加者が風邪をひく等が考えられるため、開催途中での中止も含めた早期の状況判断に努めたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年6月23日(土)、平成30年11月10日(土) 場所:青梅市役所西側(正面玄関前)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	里親会を実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅にゃんにゃんサークル「WISH」(6月)、おうめ猫の会(6月、11月) 参加人数:19人(6月)、14人(11月)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 当日の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側

行政が行うことにより、信頼性が有る。
市民の里親会の内容への理解がすすんだ。

行政側

ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

最近は飼い猫を捨てるケースが増えているので、終生飼養を市民にPRする事と、動物を捨てたら犯罪だということを広報で絶えずPRしてほしい。
譲渡する猫は必ず不妊手術をし、子猫で譲渡する場合は里親さんが手術を行う事を約束させ、手術を行ったかを確認してほしい。
合同里親会のPRが足りない。来場者が去年は少なかった。

行政側

事業の内容については、ボランティア団体と事前の打ち合わせを密にして、調整していきたい。
事業のPRについては、市のツイッター等も活用し、来場者の増加を図りたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護週間イベント in おうめ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年9月15日(土)～平成30年9月30日(土) 場所:青梅市役所本庁舎1Fロビー(総合案内付近)、中央図書館多目的室ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年11月)
(2) 事業の目的	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	動物愛護啓発映画上映会を実施したほか、事業に参加したボランティア団体の活動紹介等に関する展示を行った。
(5) 事業経費(決算額)	27,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 活動紹介等に関する展示ブースの設営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	3
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市民に動物愛護のPRができた。

行政側

ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、各団体の活動内容も紹介することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

映画の上映会の場所は駐車場のある市役所がよい。
動物愛護週間イベントの場所は検討の余地がある。

行政側

隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会の会場については検討する必要があると思われる。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年4月1日(日)～平成31年1月31日(木) 場所:市内各所
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年12月)
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	実施予定頭数 140頭
(4) 実施内容(実績値等)	手術実施頭数 139頭
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:いのちを考える会・青梅 参加人数:－
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	1	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	1	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	1	3
	(4) 協働相手は適切だった	1	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	2

(11) 協働による効果

市民側

市民からの信頼と協力を得ることができた。

行政側

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政が受けた市民からの相談には、まず相談内容と被害状況の確認と把握を行ってほしい。

行政側

市民からの相談の情報共有等について、行政とボランティア団体がより緊密に行っていく必要がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	担当課	清掃リサイクル課ごみ減量推進係
------	-----------------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年8月31日 場所：市役所2階会議室、テラス
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 10月)
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用して堆肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	アンケート実施結果において、「今後も続けたい」との回答を9割以上の方から得る。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者に対して家庭で簡単にできる生ごみ堆肥化方法を直接指導し、生ごみの減量、資源化を促進する。 参加者29人。
(5) 事業経費(決算額)	31,380円(ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：生ごみグルグルネット 参加人数：3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ減量に生ごみ堆肥化は有効な施策であること。 また、市内に堆肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：講習会の進行 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備・会場設営

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民に信頼のある市が募集をし、市役所の会議室を使用でき、経験があるぐるぐるネットのメンバーが講習を行う事により、良い相乗効果があると思う。

行政側

毎年コンスタントに応募があり、アンケート回答でも多くの方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。特に生ごみの減量＝可燃ごみの減量であるため、コスト面での効果も大きい。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

①「段ボールコンポストでの生ゴミ堆肥化」の啓発活動を今より行う。(広報以外でも掲載してみる。「知っていますか? 段ボールコンポストで生ゴミ堆肥化」等リーフレットを配布する等)

②ホームページの段ボールコンポストの作り方やQ&Aを充実させ、講習会に参加できない人もスタートできる様にする。

行政側

今回の講習会では、事前の打ち合わせと異なる進行となり一部円滑な運営とならない部分があった。次回開催については、事前打ち合わせを確実にし、円滑な実施となるようにしたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課ごみ減量推進係
------	------------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所：市内
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 4月)
(2) 事業の目的	視覚障害者等のうち、点訳された「青梅市ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	希望者全員に配布する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成30年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績4人。
(5) 事業経費(決算額)	4,155円(点字プリンター用紙)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅点訳グループ 参加人数：7人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

決められた期限を守り、希望される方にゴミカレンダーを届けられた。

行政側

点訳を行うには専門的な知識も必要となる事から、点訳を専門とするグループとの協働は大いに効果がある。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

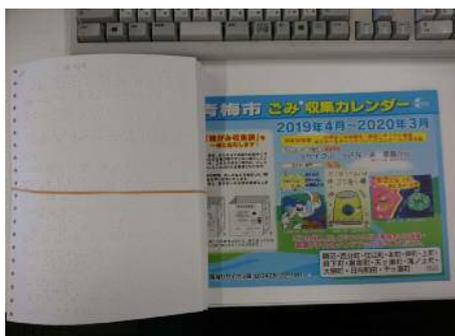
市民側

グループとしての役割は、果たせていたと思う。
より多くの方に利用していただけるよう、行政側と話し合いの機会を増やしたい。

行政側

点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。
さらに多くの方に使用していただけるよう、新たな周知方法の検討等も含め広く周知、広報する。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成22年6月)
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	予定：年間参加人数 延べ200人 実績：年間参加人数 延べ96人(6月・・・96人、9月・・・雨天のため中止)
(4) 実施内容(実績値等)	大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 14,472円、食糧費 11,520円 合計 25,992円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会) 参加人数： 96人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要な作業) 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

いこいの森を第四小学校および地域住民の自然体験および学習の場となるよう良好な状態に保全することができた。また、作業を通じ地域の連帯感の醸成が図られた。

なお、植栽樹木の生育状況も良好であり、森として形成されてきている。

行政側

ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができた。また、作業には、家族連れの方も多く参加している状況から、いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じられた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

作業日が関係団体の行事等に重なることがあったため、今年度からは開催日の固定化(6月、9月の第1日曜日)を図った。しかしながら、参加者が若干減少傾向にあるため、人数の継続確保対策が今後の課題である。

行政側

大塚山いこいの森ボランティアとの協働による管理により、森は良好な状態に保全されている。また、植栽樹木の生育状況も良好であり、今後は枝払い等の作業も必要となることから、剪定鋏や鋸等の作業道具を揃える必要がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側

本年度についても、永山公園内ボランティア管理緑地のみの管理作業を実施した。雨天等により実施できない月もあったが、毎月少しずつではあるが下草刈りおよび除伐中心の作業を行ってきた。作業日の関係もあり全区域を終わらすことはできなかつたが、その成果が目に見えて確認できることにより、達成感を味わうことができたとともに、ボランティア会員の親睦が深まった。

行政側

永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施したことにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間が確保でき利用者へ快適な環境を提供できた。また、実施した成果が目の当たりに確認できるため、ボランティア活動に対する充実感を味わっていただけたものと考えている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動内容を充実していくには、新規の会員を取り込む必要がある。また、管理区域を有効に活用していただくための園路整備を行う必要があるが、除伐が済んでいる区域の下草刈り作業も同時に行っていかなければならない中、基盤となる除伐を早期に終了させていきたい。

行政側

登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理を行ったところ人数の減少がみられた。会員の高齢化も進んでいることから、会員募集(随時)を行い、若い世代の参加者を取り込む必要がある。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課緑化推進係
------	----------------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年4月から平成31年3月 場所： 青梅の森ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 9月)
(2) 事業の目的	保全活動等を行う各種団体等と協働で青梅の森保全事業を行う。貴重な野生生物の生息の場として、市民と維持体験を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気楽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅の森事業計画にもとづく管理、運営を行う。 動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体験してもらい保全活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、作業路補修、ヨシ抜き、ヨシ刈り、野鳥観察(30名)、植物観察(12名) 原木きのこ栽培教室(19名) ※()内は一般参加者
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅の森いきものネットワーク、青梅さとやま散歩の会 参加人数： 約50人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森の事業計画にもとづく運営組織を設置(8団体により構成:組織名=青梅の森保全プロジェクト)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側

柚保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。
柚保プロジェクト共同企画により青梅の森の普及啓発をはかることができた。
柚保プロジェクト参加団体の活動及び協働作業により、青梅の森の保全・整備が進んだ。

行政側

平成30年9月の台風24号による強風で、青梅の森では倒木被害が多く発生し、青梅の森を立入り禁止とした。市の復旧修繕のほか、ボランティア団体による倒木除去作業により、早期に立入り禁止措置が解除できた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

柚保プロジェクト協働企画の市民向けイベントは、きのこ栽培教室や森林療法の参加は多いが、保全活動の参加が少ない。
イベント参加者をリピーターとしてつなぐシステムが不十分であり、登録ボランティア制度の確立が必要。
青梅の森で市民参加の活動を行うには、トイレの設置が必要不可欠であると考えます。

行政側

青梅の森の保全・整備事業については、各ボランティア団体会員の高齢化が進んでいると聞いている。今後は、新規会員の加入をお願いし、若い世代の方が積極的に保全活動ができる環境を整えたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢介護課高齢者支援係
------	------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所:市内一円
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的	市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。
(5) 事業経費(決算額)	見守りネットワーク連絡会食糧費 3,480円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 見守り協定締結事業者 参加人数: 37事業者
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側: 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

民生委員や地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う。

行政側

民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

民生委員に依頼される業務が多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。
見守りが必要な対象者を精査し、より効果的な見守り活動を行うことが必要と考える。

行政側

地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢者支援課 包括支援係
------	--------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年 9月から11月までの3か月間 場所:市内の自治会館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	平成30年度支出済額 消耗品150,714円、講師報償金18,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:高齢者クラブ3ヶ所 参加人数:145人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 会員への周知、会場準備 行政側: ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、5m歩行速度)

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側 健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側 介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所： 指定場所
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年10月)
(2) 事業の目的	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成34年までにサポーター数を1万人を目標す。
(4) 実施内容(実績値等)	平成30年度までのサポーター数5,144人
(5) 事業経費(決算額)	H30年度 テキスト代 歳出 134,441円 歳入9,064円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 全国キャラバンメイト連絡協議会 参加人数： 青梅市登録キャラバンメイト 65人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	都が企画立案および講師役(キャラバンメイト)を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。 行政側： サポーター養成講座を養成するための講師(キャラバンメイト)を派遣する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側:認知症という病気について理解し、対応のポイントや、どのように接すればいいのかを理解することができた。

行政側:認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側:自治会や企業、高齢者を扱う事業所で広く開催し、理解を深めたい。

行政側:引き続き、市役所や学校にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。

事業の様子(写真等)

H30年度から市職、小中学校にて開催し、認知症について理解を促した。



協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	---------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所： 市内の特別養護老人ホームや老人保健施設・事業所および居宅
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成14年1月)
(2) 事業の目的	市に登録された介護相談員(公募)が、介護が行われている場を訪問し、利用者からの相談を受けて、サービス提供事業者や行政に橋渡ししながら問題の改善や介護サービスの質の向上を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	介護相談員の問いかけ通して、身体拘束ゼロへの取組みや虐待防止への取組を進める。
(4) 実施内容(実績値等)	64施設、1居宅、188回、677人
(5) 事業経費(決算額)	非常勤職員報酬 1,376,946円、旅費 22,574円、研修費 155,520円 消耗品6,167円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 介護サービス相談員 参加人数： 6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成12年度に介護保険制度がはじまり、行政による措置から事業者との契約に移行したことを受け、利用者の権利擁護とサービスの質的向上を目的に創設された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 苦情申し立てに至るほど問題が大きくならないうちに、サービス提供事業者等へ問題を橋渡しし、サービス提供事業者自らが解決を図ることを支援する。 行政側： 国民健康保険団体連合会へサービスの苦情になる前に介護保険者として介護保険事業の機能を十分に監督し被保険者が適切にサービスを利用できるよう権利を守る責務を果たす。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側: 介護サービス相談員の活動を通じて利用者の日常の声をきくことで、サービスの改善点を探る重要な手がかりになるなど利用者だけでなく事業者にも効果が見られる。			
行政側: 市が受ける苦情処理はトラブルが起きた時の事後処理が中心となるが、問題が大きくなる前に未然に解決を図ることができる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: 困難な事項への解決方法や、事業所への報告方法などが課題となっている。			
行政側: 相談員の訪問のスキルや定年制度など、さらなる訪問の質向上を図る必要がある。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢者支援課 包括支援係
------	--------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成18年8月から年2回開催。平成30年度は年1回。 場所:青梅市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年 8月)
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談をし、課題を共有することで、解決に向けて多方面の専門職から意見を聴取する。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 0円(予算額23,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:社会福祉協議会の代表、民生児童委員会合同協議会の代表、東京弁護士会の代表、ケアマネジャー連絡会の代表、人権擁護委員の代表、事業所の代表 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側: 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。</p>			
<p>行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。 ②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。</p>			
<p>行政側 虐待通報の徹底化、早期発見により、関係機関が直ちに介入する体制を今後も強化していき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。緊急一時保護先の確保体制を再構築する。高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動が目に見える形での実施がないとの声があり、定期的な周知について検討する。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	平成30年度 入門・初級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	-------------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年5月～平成31年2月 全35回 (講習会および行事) 場所:青梅市福祉センター
	①単年度事業、②継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、聴覚障害者の社会参加を推進すること。 手話による日常会話の技術を習得する。「聴覚障害者」の理解と啓発を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	初級手話講習会終了後、中級手話講習会(定員30人)に移行し、より学びを深め、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく。
(4) 実施内容(実績値等)	入門手話講習会参加者39人、初級手話講習会参加者41人。うち、40人が初級講習会を修了し、6人が平成31年度の中級手話講習会に込みした。
(5) 事業経費(決算額)	165,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市聴覚障害者協会 参加人数:ろう講師2名 健アシスタント2名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会の運営 行政側: 会場の確保・広報および参加申し込み窓口・講師報償金の助成

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

障害者差別解消法の施行に伴いより多くの市民に手話を学んでもらい障害者への理解を広める為に昼と夜2コースで開催しました。受講生に「手話は言語である」ことを理解してもらえ、嬉しく思います。
協働事業のおかげで講習会会場の予約手続き等を行っていただき、全35回の手話講習会をスムーズに行うことができたことを感謝しております。今後も聴覚障害者の社会参加促進のために講習会を継続していきたいです。

行政側

平成30年度から、入門・初級手話講習会は昼と夜の2コースで開催し、手話を学ぶ機会の拡大を図ることができた。初級を修了した受講者のうち、平成31年度の中級手話講習会講習会に移行し、手話サークルに入会する受講者いるなど、地域における聴覚障害者のコミュニケーション支援の担い手養成の役割を担っている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

令和元年度も中級手話講習会では更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めることを目的に昼・夜2コースで行います。今後ともよろしくお祈いします。

行政側

入門・初級手話講習会は、今まで昼の部のみの開講であったが、平成30年度から、夜の部も開講することになった。
手話に親しむ機会の拡大を図ることが可能となる。入門、初級そして平成31年には中級と手話によるコミュニケーション能力の向上を図り、聴覚障害者の社会参加を促進していきたい。

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	第49回おうめ健康まつり	担当課	健康課健康推進係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年5月20日(日) 場所:青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)		
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和45年 月)		
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。		
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自分の健康は自分で守るという自覚を持って健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。おうめ健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効率的に市民の健康づくりを促進させること。		
(4) 実施内容(実績値等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬などの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、肺年齢測定、体組成測定、生活習慣病の予防、栄養に関する展示、転倒予防教室、Myストレッチ教室、梅っこ体操講習会、薬剤師会による講演会等を実施した。※延べ参加人数6,427人		
(5) 事業経費(決算額)	有り 医師等報償金等 503,836円		

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催		
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:【共催】青梅市三師会 【協賛】青梅市薬業会、青梅市接骨師会、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農協組合、青梅市民生児童委員合同協議会 参加人数:【共催】青梅市三師会(50人) 【協賛】青梅市接骨師会(8人)、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩(7人)、西多摩地区保護司会青梅分区(17人)、西東京農協組合(2人)、青梅市民生児童委員合同協議会(20人)ほか		
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案		
(4) 協働の理由・きっかけ	不明		
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(不明		
(6) 役割分担	市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。		

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側

来場者に対し専門的(医師等)な立場から健康に関する情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。

行政側

来場者に対し、健康づくりに関する情報提供を行い、保健衛生知識の普及啓発を図ることができた。また、歯科ブースのクイズ・ゲームコーナーや、自転車シミュレーター等、親子で楽しめる体験型の企画を行い、家族ぐるみで参加できるイベントを実施することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、健康づくりに対する意識向上が図れるよう検討していき

行政側

来場者がより高い満足度を得られるよう、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。

事業の様子(写真等)

各コーナー盛況であり、目標の来場者数600人を概ね達成できた。



協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 3,024人)
(5) 事業経費(決算額)	2,920,900円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人青梅ファミリーサポートはあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO青梅ファミリーサポートはあとが「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 乳幼児の親子が快適、かつ安全に過ごせる場所で利用者同士やスタッフとのふれ合い、関わりの中で子育てに対する安心と情報を共有することができた。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。また、実施団体のスタッフが、利用者とは良好な関係を築きあげたことにより利用者から好評をいただくことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 永山ふれあいセンターの閉鎖に伴い、永山キッズぱ～くも終了するが、今後もはあととして、より良い活動を行うため、子育てに関する研修会等に積極的に参加し、学び、知識・情報を得、スタッフが互いに意見交換し実践していけるようにする。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。			
事業の様子(写真等)			
乳幼児とその保護者がゆっくり遊べ、憩いの場となっている。こじんまりとしたスペースのため人と人との距離感が近く、保護者同士や保護者とスタッフとの交流があり、キッズぱ～くの魅力の一つとなっている。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年10月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 857人 利用件数 923件)
(5) 事業経費(決算額)	7,057,132円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 自家用車利用の導入という新しい試みに関しても、適切な助言と情報提供をいただき、比較的スムーズに進めることができた。より幅広い層に利用者がひろがり、新たな子育て支援の方向性が開けた。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員に丁寧な対応をしてもらい大きなトラブルなどなく事業が遂行された。周知活動も、協働団体が得意とする子どものための楽しいイベントを行うことで、多数の子育て世代を集客することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 幼児教育無償化に伴う事務作業の変化、予想される支援内容の変化など、早めに情報をいただき、準備していきたい。</p>			
<p>行政側 子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度利用者増加に向けた周知方法について検討しより効果的な方策を行っていきたい。近年利用件数が減少しているため、特に利用件数の増加に向けた対策について積極的に講じていきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>利用会員が提供会員に子どもを預けることで、子どもの預かりサービスだけでなく、地域の住民の緩やかなつながりを醸成する効果がある。比較的、高齢な方が多い提供会員に預けることも多く、多世代の交流にもなっている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容(実績値等)	子育てに特化したホームページの開設および運営
(5) 事業経費(決算額)	790,409円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数： HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 行政の平等性・画一性にとらわれずに情報を提供できることが協働の効果。また、青梅の市民団体がかわることで市民目線の情報提供につながった。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を確実にとらえ、またそれらを楽しく伝えることができた。さらに、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 時代とともに情報ツールが変改していくのでそれに合わせていく意味でアプリへの移行は妥当であると思います。今までの市民目線の情報をより取り入れていくことが必要かと感じます。</p>			
<p>行政側 平成30年9月末で子育てネットは終了し、今後はアプリを使って市民への周知等を行っていくが、子育てネットの良い部分は子育てアプリに引き継いでいけるようにしていきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2018	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年11月4日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等)	異世代交流コーナー、親子交流コーナー、ゲームコーナー、パフォーマンスステージ、自然体験コーナー、模擬店コーナー(入場者数 1, 100人)
(5) 事業経費(決算額)	300, 000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 団体名:子どもふれあいフェスタ2018実行委員会(NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体) 参加人数： 実行委員参加人数18名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 実行委員会発足から、子育て支援課・社会教育課・市民活動推進課・ボランティア市民活動センターが関わりそれぞれの立場から声を寄せてもらって実施へとつなげている。この事業にとどまらない協働へつながっていることに意味が大きい。</p>			
<p>行政側 子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。当日は雨が降ったが実行委員の方々の臨機応変な対応により影響を最小限に抑えることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 課題を一緒に考えることができるのが大きな成果で永山ふれあいセンター閉鎖後の会場として市役所を利用することになった。より協働の輪を広げていきたい。</p>			
<p>行政側 補助金が逡減してくなかでいかに存続させていくかが今後の課題。利益目的のイベントではないため、どこから予算を調達するかを考えていかなければならない。また、永山ふれあいセンターが使用できなくなるため、市役所本庁舎でのイベント開催を予定している。今後は市役所ならではの強みを取りいれて企画をしていく。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>・子どもとその保護者や、小学生のグループなど多くの人を訪れ盛況だった。販売しているものの価格も安く、小学生がお小遣いの範疇で十分楽しめるイベントとなっていた。 ・さまざまな年齢層の子どもがイベントを手伝っている。年齢に応じて子どもの役割も変わり、非常に貴重な体験ができています。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子のゆったりのおびりした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数1,533人)
(5) 事業経費(決算額)	1,034,300円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： 3団体のローテーションで実施。常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの成長を見守るとともに、現状に応じた適切な支援ができた。 ・放課後に一人で過ごすことが不安な子どもに寄り添い、話を聞くことでストレス解消に役立つことができた。 ・特に心配なケースは必要に応じて、子ども家庭支援課と共有できることで、安心安全な環境での子育て支援事業を行うことができた。 ・学校、家庭以外の第3の居場所になった。 ・にぎやかな交流場所が苦手な親子でも利用しやすいように、スタッフが話し相手、遊び相手となりゆったりと楽しい時間を過ごしてもらうことができた。 			
<p>行政側</p> <p>それぞれのNPO団体の持つ得意分野を生かし、魅力ある子育て支援事業を行うことができた。土曜日の工作は協働団体が工夫を凝らし、魅力あるイベントとして多くの参加者があった。</p>			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきっぷのゲームで遊ぶ前に、学校の宿題を済ませたい小学生が多かったので、学習ができる静かな空間が必要だった。 ・「ネッツたまぐーセンター」のキッズルームでも、すきっぷの子どもの居場所としての機能を引き継いでいく必要がある。 ・開催時間や利用ルールを知らない保護者がほとんどだったので、その周知が必要だった。また、子どもを見守る環境を整える為に学校・行政・地域が連携する重要性を感じた。 ・幼児連れの利用者から、ゆっくりと安全にお弁当を食べることができるような場所がなくて困っているとの声が多くあった。ネッツたまぐーセンターキッズルームでは、食事の時間を設定してほしい。 			
<p>行政側</p> <p>青梅市民センターの移管に伴い、すきっぷは廃止され、文化交流センターに新たな子育てひろばが開設されるが、すきっぷの子どもの居場所としての機能もしっかりと引き継いでいくことが必要である。</p>			
<p>事業の様子(写真等)</p> <p>月曜日は乳幼児とその保護者がゆったり遊べ、憩いの場となっていて、保護者同士の交流もある。火曜日・金曜日は小学生の利用が多く、職員の指導の下ボードゲーム等で幅広い年齢層の交流の場となっている。毎月第2土曜日は工作などをし、好評を得ている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年3月10日(日) 場所:青梅総市総合体育館 第2スポーツホール
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成31年3月)
(2) 事業の目的	子育てに関するイベントを通して、子どもの知性や感性を育て、保護者同士が交流を通じて互いの子育てに関する悩みや情報を共有できる場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	乳幼児向けの体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者83人
(5) 事業経費(決算額)	68,685円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数:17人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画、当日の指導・運営 行政側: 周知、申込受付、会場・備品の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働によって、広報掲載や会場確保、開催場所との連絡、備品の借用、等が滞りなく行えた。市のイベントとなる為、参加費の面でも参加者により良いサービスを提供出来た。</p>			
<p>行政側 本年度から社会教育課から移管された事業であり、従前から本事業の企画・運営に実績のある団体と協働で実施したことで、参加した乳幼児とその保護者にとって有意義なイベントにすることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 今回の出演者も大変好評だった。準備に時間を要する内容だったが、会場の方に早い時間から対応していただく事で時間通り開始の準備をする事が出来た。 しかし、同日に空手の大会があったため駐車場が不足し、参加者の一部が時間に間に合わないという事態になり、結果的に開始を5分程遅らせることになった。 今後更に、市民のニーズを掴み、魅力的なイベントとするための情報収集、情報交換を行い、検討を重ねて行くことが必要である。 また、今回出演料交渉は比較的スムーズに行えたが、現行の予算では出演交渉が難航する可能性が高いので、質の高い人員確保のため、予算の見直しをぜひお願いしたい。行事終了後に共同で振り返りを行い、改善点等について共有し次回に活かせるようにする。</p>			
<p>行政側 同日に同じ施設で開催の別事業があり、来場者の駐車スペースの確保に苦慮することとなった。次年度以降は、同日に会場周辺で開催される事業などにも気を配る必要がある。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課青少年担当
------	----------------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成31年2月3日(日) 場所:青梅市総合体育館	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年1月)
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、綱引き大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計60程度の出場チームより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付接待・放送・選手・模擬店および会場、賞品等各係による当日の大会運営を行う。 出場参加チーム46チーム、参加人数499人
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区) 参加人数:78人(他青梅市スポーツ推進委員協議会、日本綱引連盟公式審判員等総勢約100人)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側: 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会や出場チーム組合せ抽選会会議の開催事務、必要物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。また、大会運営については、工夫や改善をしながら、スポーツ推進委員や綱引連盟公式審判員、青少年対策地区委員が行うことで、スムーズな進行となっている。

行政側

大会前日の会場設営や当日の出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導について、役員や実行委員が協力し円滑に行った。また、反省をもとに追記等したマニュアルを活用し、それぞれの役割分担を理解してもらい、スムーズに進行することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

地域の出場チームの呼びかけを工夫し、出場チームの増加に努め、親子のふれあいや青少年の健全育成を目的に、さらに改善に努め、より良い大会にしてゆきたい。

行政側

反省事項、改善要望等を踏まえ、出場チームの参加資格やルールの見直しを行い、参加者から喜ばれる大会として質の向上に努めてゆきたい。また、協働を行っている実行委員との円滑な連携を図ってゆきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年5月26日～6月24日 場所:吹上しょうぶ公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数86人)
(4) 実施内容(実績値等)	花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数86人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費:39,186円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数:25人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
(6) 役割分担	市民側: ガイドの実施 行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

お客さんに教えてもらうという謙虚な気持ちで、すこしでもステップアップしていきたい。

行政側

来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

吹上しょうぶ公園以外のボランティアと交流会を実施すると、色々な視点が見ることができると思う。

行政側

ガイドボランティアが毎年加入している。
新人の方が活動しやすい環境作りを心掛けたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	-----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年3月9日、10日、16日、17日 場所:梅の公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅まつりの来園者へのガイド(述べ活動人数22人)
(4) 実施内容(実績値等)	梅まつりの来園者へのガイド(述べ活動人数22人)
(5) 事業経費(決算額)	1 ガイドボランティア講習会の講師報償金:16,000円 2 書籍購入:2,410円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:梅の公園ガイドボランティア 参加人数:15人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅の公園利用者サービス向上
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ガイドの実施 行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	3

(11) 協働による効果

市民側

青梅市ゆかりの種類の梅が少なくなりましたが、梅図鑑の如く見事、多くの種類の梅が植栽されまして、見ごたえのある梅の公園になるように思います。ガイドボランティアとしてガイドのやりがいを感じます。

行政側

来園者に梅の公園のガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

お互いの話し合いの場がもっと頻繁に有れば情報の交換が出来ると思います。

行政側

伐採後、初のガイドボランティアで、以前とは違う種類の梅であったが来園者には丁寧に説明をしていただいた。梅がまだまだ成育段階であるため、ガイドの皆さんには臨機応変に対応していただいた。今後もガイドがスムーズに行えるよう話し合いをしていきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林水産課林務水産係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年6月2日、9月8日、10月13日、12月8日、平成31年1月12日、3月9日(計6回) 場所：青梅の森 他
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成14年) 2年1期で9期1年目
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成を図る。平成22年度から杉並区との共同開催となっている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間6回の開催 講座受講者30人(青梅市15人、杉並区15人)
(4) 実施内容(実績値等)	下草狩り、間伐、枝打ち、植栽、木材市場・製材所・地元産材活用先の見学
(5) 事業経費(決算額)	森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額 838,000円 バス借り上げ料 93,960円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数：各回10名～15名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 講座内容の決定、資機材の準備、当日の実技指導等 行政側： 受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側

この事業は、青梅市民と杉並区民が参加することから、杉並区との調整など青梅市にはよくやっていただきました。また参加者にとって、青梅の森を中心とした様々な森林での体験したことで、森林保育保全を理解してもらえたと思います。結果的に青梅の森の整備が進みました。

行政側

日本の山林の状況をよく理解することができた。森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れて行くことの大切さがわかった。手を入れている森林、放置されている森林なども目で見て森林の大切さ、担っている機能等を学ぶ事が出来た。1期2年の講座終了後には、率先してボランティア団体に入り継続して活動している方もいる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

参加者が欠席する場合連絡がない方がいたりする半面、毎月実施して欲しいなどの声もあり、次期開講に向けて精査をする必要があると思います。森林に興味を持ち、技術を学び、青梅の森に協力してくれる参加者を今後も募り、この事業が続いていくことを願います。

行政側

実施場所、雨天時の対応に課題がある。特に、永山ふれあいセンターが閉鎖となり、開講式、閉講式の実施場所について困惑している。共同開催であるため、打合せ等が気軽に出来る環境でないため、今後の改善策等について話す機会が持てなかった。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	第53回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課 スポーツ推進係
------	--------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成31年2月17日(日) 場所:10キロの部 東青梅四丁目～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目～川井(折返し)～青梅市総合体育館前
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(1967年3月)
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容(実績値等)	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費(決算額)	ボランティア用の帽子 :@460円×1720個+63,296円(消費税)=854,496円(税込) ボランティア弁当 :@430円×2,905個+17,178円(おしぼり等) +11,079円(人件費)+101,731円(配送費)=1,379,138円(税込) ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数: 2,707人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」)
(6) 役割分担	市民側: 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側: 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

第53回大会を通じて、マラソンに関心のなかつた市民もランナーの頑張る姿、またボランティアの広範な活動等を見て、マラソンって素晴らしい、自分も参加してみたいと市民意識を盛り上げている。

行政側

多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ること、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。参加者からは、大会ボランティアや観客の方等沿道からあたたかい声援がもらえるとの声を多くいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

全国的に多くのマラソン大会が行われ、ランナーが大会を選べる時代になった。時代に乗り遅れない大会運営をしていく必要がある。現在マラソンコースがせまいという問題もあるが、ランナーが楽しく走れるよう考えていきたい。

行政側

- ① ボランティアの割り当て(役割分担、配置場所)の再検討
- ② ボランティアへの救命講習会の実施等、医務救護体制の強化
- ③ テロ等、非常時を想定した連絡体制・警備体制の見直し

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課開発指導係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:6/22、2/26、3/26 場所:本町会館	
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で機関誌(おうめ風景通信)の発行や青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動および今までの活動実績の冊子作成などを行った。	
(5) 事業経費(決算額) 景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成)30,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:青梅宿の景観を育む会(会員15名) 参加人数:各回7、8名程度	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 3. その他 その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)	
(6) 役割分担 市民側: 青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側: 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 青梅駅周辺地区景観形成基本計画に対する理解が進み、建物等の新築・改築時に計画に沿った形で進めてもらえるようになった。市への届出に対する抵抗が減ってきている。</p>			
<p>行政側 市民団体の活動や市との協働事業および市の事業をPRしてきた機関誌(おうめ風景通信)について、昨年度、冊子への取りまとめを行う中で、景観まちづくりの取組みに対する共通認識を深めると共に、改めて市民との協働事業の重要性を認識した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 景観形成地区内の店舗が世代交代や閉店取り壊しなどにより、通りの連続性が失われてきている。広報等での景観重要資源をはじめとした古い建物の保存状況などのPRが乏しい。地域の自治会長会議などに参加して活動のPRが必要。</p>			
<p>行政側 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るような取組みを進める必要がある。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年10月27日(土) 午後1時30分～4時30分 場所： 市役所2階 204・205会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 11月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	相談件数 17件
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数： 17人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側 住宅に関する様々な相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、行政書士会、司法書士会にも協力を得て、空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。			
行政側 さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相談内容に対し、専門の相談員を配置できるよう、対応を検討していく。			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	定例住宅相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	---------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年4月19日～平成31年3月14日の第3木曜日(10月を除く) 場所： 市役所1階 相談室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年 7月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	開催回数 11回 相談件数 30件
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数： 延25人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。</p>			
<p>行政側 住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、行政書士会、司法書士会にも協力を得て、空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。</p>			
<p>行政側 さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相談内容がその相談日のテーマに合っているかの精査が必要であり、場合により相談日の変更等の対応を行う。</p>			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年 場所： 各市立小・中学校
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： — 参加人数： 269人（全校 計）
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 学校の依頼にもとづく支援 行政側： 学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。 できる範囲で教育活動にかかわることができた。 子どもたちの様子をするすることができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。 図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。(登録269人) 地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 学校の都合で日時が限定される。 分担の内容の明確化(どのようなことが望まれているか、はっきりすると活動がしやすくなる)			
行政側 人材の十分な確保 ボランティア人材の発掘			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2018～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年5月12日(土)、13日(日) 場所： 釜の淵公園およびその周辺施設
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年5月)
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者・参加者 3, 264人
(4) 実施内容(実績値等)	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話し会、竹細工展示・販売、手品、野点による抹茶接待、青梅だがしや楽校による体験イベント、木工クラブ、市内の団体・企業による飲食物販売。
(5) 事業経費(決算額)	81, 870円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数： 91人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画運営 行政側： 事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

飲食物の販売が拡充されて来場者の滞在時間も長くなり良くなっている。体験イベントも充実しており、全体として工夫がされていた。多摩リハビリテーション学院の学生たちが、様々な場面でよく動いており、幅広い年齢層の方と接するきっかけとなった。

行政側

来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも見てもらえるような工夫ができるとよい。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも見てもらえるような工夫ができるとよい。

行政側

市民も一緒に行う作業の幅も増えてきて協働が進んでいると考える。実行委員会の運営もさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていく事が必要。釜の淵市民館閉鎖後にこのイベントをどのように実施していくかが大きな課題となっている。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： ①平成30年7月22日(土) ②10月14日(日) ③11月17日(土) 場所： ①市役所会議室 ②中央図書館多目的室 ③ねむの木幼稚園	2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成22年7月)
(2) 事業の目的 家庭教育の充実を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。	
(4) 実施内容(実績値等) ①聞こえてますか?子どもの心の声 ②おやこで図書館フル活用～お気に入りの場所み～つけ!～ ③お悩み解消!めざせ!ごきげん1年生!	
(5) 事業経費(決算額) ①講師報償金 26,000円 ②講師報償金 20,000円 ③講師報償金 20,000円 保育業務委託料 18,765円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人 青梅こども未来 参加人数: 講演会各回10人前後	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 子育て現場の声を反映した講演会とするため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 保護者への周知、講師等の情報提供、子どもの保育、当日受付・手伝い 行政側: 周知、講師交渉、当日運営	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側

- ・役割分担することで効率が上がり、家庭教育という1つの趣旨での年3回の開催が可能になっている。
- ・事前の打ち合わせをしっかりと行い、社会的に問題になっていることを講演会のテーマとして取り上げることができた。
- ・参加者数増加のため、PTAや幼稚園に積極的にPRを行った。

行政側

- ・子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。
- ・講演会中の託児保育により、対象となる子育て中の保護者が参加しやすい環境を整えることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・より多くの市民の方に参加していただくために、考えられる手立て(時期・テーマ・広報・場所等)の再考が必要かと思う。待っているだけではせっかくの良い情報が必要なところに届かないという現状を鑑みると、幼保や小学校など対象とされる施設での出前講座など、積極的な展開も必要ではないかと思う。
- ・託児希望者が託児の定員を超えてしまうと講演会に参加できないのが残念である。子供同伴も可とした内容の講演会を検討していく必要もある。
- ・昨年も課題として報告したが、市が設定している講師料と候補に挙げたい講師の講演料がかけ離れているため、講師選定が難しくなっている。

行政側

- ・講演会に参加しづらい地域に居住している市民を考慮し、会場の選定を検討していきたい。
- ・参加者増加のための周知方法を検討していきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年5月19日 場所：中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年6月)
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「リーダーズあおうめ」 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側： 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。

行政側

朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

演出方法や会場の設営など考慮する必要がある。

行政側

この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

事業の様子(写真等)

出演者募集と開催告知に広報用ポスターを作成し、使用した。



協働事業評価シート（表）

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	---------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日 場所：中央図書館
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成18年11月）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備（整架、配架、資料清掃）
(4) 実施内容（実績値等）	整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理と軽易な資料修理を行っている。
(5) 事業経費（決算額）	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：図書館整架ボランティア登録者 参加人数：延べ 216人（登録者17人、年間活動日数194日）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	
市民側：	図書の整架・清掃
行政側：	ボランティアに対する社会的活動の場の提供

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。</p>			
行政側			
<p>ボランティアの受け入れを通じて、より利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<p>図書館側とより活発な意見交換をすることにより、より効率的な作業を行えるようにする。 また、新旧ボランティアの交流を行い、より情報共有に努め、誰もが自信をもって作業にあたるようにする。</p>			
行政側			
<p>ボランティア側の疑問点等を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。 さらに自立的活動ができるようサポートする。（わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等）</p>			
事業の様子（写真等）			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年4月1日から平成31年3月31日 場所：中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2 継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成19年 月）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容（実績値等）	おはなし会17回（中央）、11回（今井）、3回（梅郷）、12回（絵本の森）、おはなし学習会（初級）8回、 新緑祭1回、絵本のべんきょう会6回、出張おはなし会5校39クラス、新町スペシャルおはなし会2回 おはなしドーナッツ（おはなし学習会【中級】23回）
(5) 事業経費（決算額）	20,046円 おはなし学習会講師報償金（3,341円×6回） 40,092円 絵本のべんきょう会講師報償金（6,682円×6回） 20,040円 おはなしドーナッツ講師報償金（1,670円×12回）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本の研究会」、個人登録ボランティア 参加人数：延べ 248人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 各回の反省点を次の回に修正し活かすことができた。</p>			
<p>行政側 おはなし会を定期的で開催し、多くの利用者に参加してもらうことで子ども読書活動の推進が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 行事の参加人数を増やせるよう努力したい。</p>			
<p>行政側 スタッフの育成とボランティアの育成を一層進めるとともに、円滑な情報交換を図っていきたい。</p>			
事業の様子（写真等）			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」	担当課	文化課 郷土博物館管理係
------	--	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年8月25日(土) 場所： 青梅市立美術館 市民ギャラリー
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年7月)
(2) 事業の目的	青梅市の市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしに向け、また観梅市民まつりに参加するための手作り甲冑教室を開催するとともに、郷土の歴史と文化を学び合うことを通じて郷土を愛する心を育てる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市立美術館市民ギャラリーにおいて、甲冑の部品である喉輪を作成し、紐を実際に緘す作業を体験し、甲冑の構造を知るきっかけづくりを行う。また、試着体験をすることにより甲冑の構造や戦国時代の戦さについて改めて考えることを目的とする。さらに、戦国時代に青梅を中心として活躍した三田氏を中心に郷土の歴史、文化財について興味を持つきっかけを提供する
(4) 実施内容(実績値等)	市立美術館市民ギャラリーにおいて手作り甲冑の喉輪製作体験教室を行った。内容は時間の関係上、途中までの作成してある喉輪セットを利用して紐を緘す作業を行った。スタッフは一人ないし親子一組に一人が付いて教えた。喉輪製作後は、手作り甲冑の試着体験を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 武州青梅三田弾正手作り甲冑隊 参加人数： 7名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	文化課(郷土博物館)と武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊とで平成28年度市民等との協働事業「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」を実施した。今後の課題の中で、甲冑製作体験を行い、多くの市民に歴史と文化に親しみを持ってもらいたいなどがあげられていた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 甲冑の展示、説明、製作の講師 行政側： 広報、開催場所の予約

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側 青梅にもこんな歴史があったんだと甲冑製作(今回はのど輪)を通して郷土史を学べる機会になり効果があったと思います。約450年前に三田氏と北条氏がなぜ戦い、それが現在に至るまで、青梅の文化歴史に影響を与えていると思います。これからもボランティアとして行政と協力して甲冑武者の展示と試着を行っていきたいと考えています。

行政側

親子3組6名、子ども1名、大人1名の8名の参加があり、甲冑の部品を手づくり製作体験を行うこと、甲冑を試着体験をすることとおして、甲冑の構造、仕組みや青梅市の戦国時代、当時の豪族である三田氏についてを知ることができ、効果があった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 参加者からも歴史に興味を持った方がいるので、今後は甲冑製作と城跡の案内を組み合わせればより効果が期待できると思います。その後手作りした甲冑の試着用を充実させたいと考えます。

行政側

会場が市立美術館市民ギャラリーであったため、体験中に当日の展示を見学する方がいる状態であったことから単独の会場の必要性がある。参加者を先着10名としたが、申し込みは8名であったため、周知を子どもたちが集まる市民センターなどへポスターチラシを作成し配布すれば参加者が増えたと考えられる。参加者から甲冑つくりの継続的な講座を引き続き行うことについて興味を持っており、継続的に実施を考える。

事業の様子(写真等)

